

沖井議員（自民議連）

令和4年2月21日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）ことばの教育について

県では平成15年度から全国に先駆けて「ことばの教育」に取り組んできたが、近年「ことばの教育」というキーワードを県においても聞くことが少なくなり、県教育委員会ホームページでも新着情報の図書館関係など以外にはあまり見られない。児童生徒の基礎学力や習熟度が低く「課題発見解決学習」を導入しにくいような現場においては、「ことばの教育」を着実に推進し、自己表現力に磨きをかけるような試みも必要であると考えている。

そこで、現在「ことばの教育」がどのような形で現場において推進されているのか、そして、今後の取組について、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

本県では、全国に先駆けて、「ことばの教育」に取り組んでおり、各学校におきましては、授業改善や読書活動の推進に加えて、短歌や古典に親しむ活動、小論文の作成やディベートなどの言語活動を充実させるなど、「ことばの力」の育成に努めております。

こうした取組により、児童生徒の、「聞いたり、読んだりしたことを、確実に理解し、筋道立てて考え、論理的に表現する力」が高まるなど、成果がみられているところでございます。

このような成果を踏まえ、授業改善につきましては、現在、本県が「学びの変革」を掲げて進めている「課題発見・解決学習」においても、「ことばの教育」を引き続き重視しており、国語科をはじめ各教科等で、児童生徒は、自分の考えを自分の言葉で論理的に表現する学習活動に取り組んでおります。

例えば、中学校の国語科では、文学の授業改善を進めており、教科書教材の詳細な読み取りに偏るのではなく、学校図書館等を活用して多くの作品に出会い、それらを比較・分析・批評し、自分の生き方に対する考えを深め、語り合うといった授業づくりに取り組んでおります。

こうした学習を通して、生徒は、読解力を向上させ、自分の考えを自分の言葉で表現する力を高めております。

また、学力に課題がある児童生徒におきましても、「課題発見・解決学習」により、探究的に学ぶ意欲が高まり、自分の考えを自分の言葉で表現する機会を通じて、「ことばの力」を高めていくものと考えております。

次に、「ことばの力」を向上させる重要な活動の一つである読書活動の推進におきましては、県立学校の図書館リニューアルを推進するとともに、視察の機会を設けて、各学校の読書環境の充実を促す取組も進めております。

さらに、来年度の公立高等学校入学者選抜から「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」をみるため、受検者全員に対し「自己表現」を導入することとしており、これまでの「ことばの教育」で培ってきた、自分の考えを論理的に表現する力や、人と円滑にコミュニケーションをとる力は、ここでも生きて働くものと考えております。

教育委員会といたしましては、今後とも、これらの取組を通して、「ことばの教育」を着実に推進し、「学びの変革」の実現につなげてまいります。